

平成 21年度第 1 回子どもたちの確かな学力育成のための検討委員会 会議録

1 日 時 平成 2 1 年 1 0 月 1 日 (木) 午後 3 時～午後 4 時 4 0 分

2 場 所 生駒市役所 4 0 1 ・ 4 0 2 会議室

3 出席者

(委 員)

委員長 東谷 光雄

副委員長 大島 眞規

委員 川森 富美子

委員 辻野 トシ子

委員 山本 公一

委員 山中 和幸

委員 西村 徹

委員 井上 宝

委員 徳田 周子

委員 吉村 邦彦

(事務局)

教育長 早川 英雄

教育総務部長 大津輪 幹夫

教育総務課長 峯島 妙

教育指導課長 西井 久之

教育総務課課長補佐 辻中 伸弘

教育指導課課長補佐 井上 廣

教育総務課 楠下 崇子

4 欠席者

委員 下浦 暁夫

5 議事内容 (要旨)

(1) 委嘱状の交付 (教育長から交付)

- (2) 教育長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長・副委員長の選出（互選による選出）
- (5) 検討委員会の趣旨説明(事務局から説明)
- (6) 各施策の概要説明等(事務局から説明)

(委員長) 委員の皆さんから質問等あればお願いします。

(委員) 資料で配っていただいた「生駒市学校教育の目標」の中の本年度の指導力点は、特定の学校を指定したものではなく、市全体を対象にしたものですか。

(事務局) 生駒市としての目標ですので、全学校を対象にしています。ただし、例えばALTを派遣して行う小学校での英語活動など、市として一律に実施する取り組みについても、細かな内容については、各学校が実態に応じて工夫して取り組んでいただいています。

(委員) 事務局の説明の中で、小学校の1年生について、「家庭のしつけが十分でない」「確実に身に付けていて欲しいことが身に付いていない」という話がありましたがもう少し説明してください。

(事務局) 幼稚園等と違って小学校ではチャイムが鳴りますが、チャイムが鳴っても席に着かないとか、1年生は集合させるのが大変という話をよく聞きます。また、友達とトラブルがあったときの対処など、社会性という面で、これから学んでいくわけですが年齢に応じた社会性を身に付けているかどうかという点で、十分ではない部分があると思われまます。

市教委としては、もちろん市立幼稚園とは連携をとっていますが、私立幼稚園や保育園から上がってくる子どもたちもおりますし、自由保育で育っている子どもたちがおりますので、1年生の担任は最初は大変なようです。

(委員) 1年生を受け持った経験から6月ぐらいからは、ほぼ小学生らしい行動が出来るようになりますが、チャイムで行動する、順番を守る、持ち物を持って来るなど、最初は難しいようです。

保護者には、時間割や持ち物を子どもと一緒に確かめてもらいながら、毎日の準備をお願いしたいのですが、最近は、「もう〇年生になったので連絡帳は見ません」「子どもに任せます」という保護者もいるので、学年に関係なく子どもが一人で出来ないなら、保護者が一緒にやるべきだという共通理解をすべての家庭で持ってもらえたらと思います。

(委員) 幼稚園から小学校へ上がる際、段差があるのではないかと世間でも言われておりますが、先ほども話がありましたように確かにカリキュラムが違いますし、チャイムもありません。

幼稚園では登園したら、まず自発活動といって、思い思いに好きな遊びをするようになっていますが、しばらくしますと自発活動だけでなく、一緒に歌を歌ったり絵を描くなどの一斉活動も行います。

また持ち物は、園で遊ぶときは、道具はすべて幼稚園のもので、小学校と違って個人的に何かを持って来ることがあまりありません。それでも、年長組になれば、保護者に小学校で使うものは基本的に自分で持っていくことになるので、忘れ物がないようにと話していますし、子どもたちにもコップなどを忘れたときは、自分でも点検するようにと話しています。市立幼稚園としては、保護者とともに子どもたちのことを考えながら、見守りに努めているところです。

また、幼小連携事業もありますので、職員がお互い行き来しながら情報交換を図っているところです。

(委員) 中学校の現場の意見として、学校によって格差があると感じています。具体的には数学を教えていて、小学校の低学年の算数でつまずいたまま、中学校へ上がってきたのではないかと思うことがあります。

塾に通う生徒もいますが、学校としてもサポートが必要だと思いますし、私が勤務する学校では、今年度から学年と曜日を決めて補習を行っています。

そういった中学校の現状から考えると、小学校1年生の30人学級は良い取り組みだと思いますし、2年、3年と少人数学級の指導を続けてもらいたいと思います。今は、はっきりした成果がわからなくても、6年ぐらい経てば目に見えて成果がでてくるのではないのでしょうか。

また、小・中学校の引継ぎがあいまいで、小学校で教えるのが難しい箇所が中学校には伝わってこないのが課題だと思います。

(事務局) 学校格差についてですが、先ほど事務局から説明した学力テストの結果は生駒市全体の平均の話であって、やはり地域や学校によって若干の差はありますので、当然各校で比較し、対策をとっていただくことになっています。

(委員) 先ほど数学を例に出されていましたが、国語はどうですか。

(委員) 国語も同じで、例えば漢字を記号のように書く生徒がおり、へんかつくりが左右反対になっている場合があります。

(委員) 読書の量や質は、どうなんでしょうか。

(事務局) きっちりしたデータはありませんし、やはり学校や地域によって差はあると思いますが、生駒市では比較的よく読書をしていると思います。

学校には司書教諭がおりますが、担任が兼ねており、本来の自分の仕事もありますので、今年から3校だけですが、週1回、学校図書館司書を派遣しております。司書がいる日は一日中図書館が開いていますので、読書の機会がより一層増えればよいと考えています。

(委員) 大阪市で、生駒市でいう学童保育のような事業に携わっています。宿題をして、その後、運動場で遊ぶというのが一般的ですが、9月から週1回学生をつけてもらって、2・3年生の希望者を対象に補習のようなことも始めました。半数以上が申込み、子どもたちも熱心に取り組んでいます。生駒市でもこのような学力を伸ばそうという動きはありますか。

(事務局) 学童保育は全小校にあります。それ以外では、放課後子ども教室があり、これまでは1校でしたが、今年度2学期中に1校追加する予定です。学力補充に限った取り組みではなく、子どもの見守りを中心に考えた事業ですので、宿題でも遊びでも何をしてもいいですし、ボランティアの方にご協力いただいております。

(委員) いろいろな意見が出ていますが、「確かな学力」の定義について共通認識が必要ではないでしょうか。今回は、学習面での学力についての意見が多いように思いますが、昨年度、この検討委員会では「生きる力」という意味で検討を進めてきたと思います。

また、30人学級の今後について検討するためには、当初、低学年と決めましたのでなぜ低学年にしたのかという意味でも、その中身と成果について検討が必要です。その上で、今日の意見を参考に話し合っていくべきではないでしょうか。

(事務局) 今、ご発言いただいたとおり、本検討委員会では数字に表れる狭義の学力ではなく、社会性、道徳性なども含めた子どもたちが生きていくために必要な力ということで検討をお願いしてきました。今回も、その方向でお願いしたいと思います。

(委員長) それでは、確かな学力の定義についてご確認いただいたところで、次回は、30人学級編制について、これまでの実績をもとに点検・評価を行ない、今後の方向性を考えていくということをお願いいたします。

(事務局) では、次回の会議開催について、この場で日程調整を行います。

(日程調整)

(委員長) それでは、次回は10月26日午後3時からの開催といたします。

本日はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。